

# 気 象

## 【概 況】

### 〔平成16年の気象の特徴〕

- ・冬の気温は高温(1月：平年並、2月：高温)で少雨・多照。
- ・春の気温は高温で多雨・多照。
- ・梅雨入り(6月6日頃)は平年並、梅雨明け(7月13日頃)は平年より早く、梅雨期間は少雨。
- ・6月は高温・少雨で多照。7月は高温・少雨・多照。8月は多雨・寡照。
- ・9月は残暑の厳しい日が続き、高温。
- ・10月は多雨。
- ・11月は高温・多雨。
- ・初冬は高温・多雨。

平成16年の台風の発生数は29個で、平年(26.7個)並みであった。一方、日本に上陸した数は、10個(平年は2.6個)で、平成2年(1990年)と平成5年(1993年)の記録6個を大きく上回った。また、日本に接近した数は19個(平年10.8個)で、昭和26年(1951年)の台風統計開始以降で、昭和35年(1960年)と昭和41年(1966年)の記録に並び歴代最多となった。なお、接近数の内訳は、本土12個(平年は5.2個)、南西諸島に15個(平年は7.2個)であった。

### 〔月別の気象概況〕

- 1月：上旬は周期的に変化したが、冬型の気圧配置になる日が多かったため、概ね晴れの日が続いて県内ではほとんど降水がなかった。中旬は、低気圧が日本海や南海上を周期的に通過し、通過後は冬型の気圧配置となる日が多かった。17日は、低気圧が南海上を通過した影響で、県内で積雪を観測した。なお、14日には、ウメ(平年より24日早い、昨年より18日早い)が開花した。下旬の前半は、強い冬型の気圧配置が持続して寒い日が多かったが、後半は冬型の気圧配置も緩み、気温は平年を上回った。
- 2月：上旬の初めの2日は、気圧の谷の影響を受けて県内で雨となったが、その他の日は冬型の気圧配置になることが多く、概ね晴れの日が続いた。中旬は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かった。14日は、発達した低気圧が日本海を通過して、近畿地方では春一番が吹いた。下旬は、周期的に変化した。22日と29日には寒冷前線が通過した影響で、県内でまとまった雨となった。
- 3月：上旬の前半から中頃にかけては、気圧の谷や前線の影響で、曇りや雨または雪の日が多かった。旬の後半は、移動性高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かった。中旬は、高気圧に覆われやすく平年に比べ気温の高い晴れの日が多かったが、11日と18日は寒冷前線が通過し、18日はまとまった雨となった。下旬の前半は、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、22日はまとまった雨となった。旬の後半は、移動性高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったが、30日は低気圧が南岸を通過した影響でまとまった雨となった。なお、25日には、ソメイヨシノが開花(平年より7日早い、昨年より5日早い)し、30日には、満開(平年より7日早い、昨年より5日早い)となった。
- 4月：上旬は、短い周期で気圧の谷が通過したが崩れの程度は比較的小さく、移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬は、高気圧に覆われて晴れる日が多く、夏日(日最高気温25℃以上)となる日があった。14日と19日は前線や低気圧の影響で雨となった。下旬は周期的に変化し、低気圧や前線の通過後、寒気が流れ込み気温が低くなった。なお、27日は低気圧や前線が通過した影響で、県南部を中心に大雨となった。
- 5月：上旬は周期的に変化し、中頃と終わり頃に気圧の谷や前線の影響でまとまった雨となった。また、気温の高い日が多かった。中旬の初めは、高気圧に覆われて概ね晴れて気温が高かったが、中頃からは気圧の谷や前線の影響で、曇りや雨の日が多く、多雨・寡照となった。なお、13日は日本海を前線を伴った低気圧が東北東に進み、低気圧から延びる寒冷前線がゆっくり通過した影響で、北部の一部で夕方から宵の内にかけて短時間強雨となった。下旬は、前半から中頃までは高気圧に覆われることが多く、気温の高い晴れの日が多かった。旬末は、日本海の前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、真夏日(日最高気温30℃以上)が続いた。

- 6月： 上旬の前半は、高気圧に覆われて概ね晴れたが、その後は梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨のくずついた天気となった。なお、6日頃、近畿地方は梅雨入り(平年6月6日頃、昨年6月10日頃)した。中旬の初めは、台風第4号から変わった低気圧の影響で雨となったが、旬の中頃は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が多くなり、梅雨の中休みとなった。旬の終わり頃は、九州の南海上を北上する台風第6号の影響を受けた。下旬の初めは、台風第6号が近畿地方を通過した影響で雨となったが、旬の中頃は、梅雨前線が西日本に停滞した影響で、曇りや雨の日が多かった。旬の終わり頃は、気圧の谷の通過した後、上空に寒気が残り大気の状態が不安定となった。
- 7月： 上旬の初めは、高気圧に覆われることが多く、概ね晴れて気温の高い日が続いた。旬の中頃の5日は、台風第7号から変わった低気圧が日本海を東北東に進んだ。この低気圧から延びる前線が通過し時々雨となった。旬の終わり頃は、南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、県北部の一部で雷を伴った短時間強雨となった。中旬の初めは、上空の寒気や前線の影響で曇りや雨となる日があったが、その後は高気圧に覆われて概ね晴れて気温の高い日が続いた。なお、13日頃に、近畿地方は梅雨明け(平年7月19日頃、昨年8月1日頃)した。下旬は、太平洋高気圧に覆われて暑い晴れの日が多かったが、旬の中頃に上空の寒気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定となり、所々で雷雨となった。旬の終わり頃は、動きの遅い台風第10号の影響で県南部を中心に大雨となった。
- 8月： 上旬の前半は、台風第10号と台風第11号の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。旬の後半は、太平洋高気圧に覆われるが、上空の寒気や日射の影響で大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷を伴った短時間強雨となった。中旬の前半は、高気圧に覆われて暑い晴れの日が続いたが、旬の後半は、前線や台風第15号に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、曇りや雨の日が多かった。下旬の前半は、前線や南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、曇りや雨の日が多かったが、旬の中頃は、高気圧に覆われて概ね晴れた。旬の後半は、九州南部に上陸した台風第16号が西日本を通過した影響で、県南部を中心に大雨となった。
- 9月： 上旬は台風や前線などの影響で、曇りや雨の日が多かった。7日は、台風第18号が九州の西海上から日本海を北東進した影響で、県内では昼過ぎから夜遅くにかけて風が強く、奈良で7日11時29分に北東の風23.2m/sの最大瞬間風速を観測した。中旬は高気圧に覆われて残暑の厳しい日が多かったが、南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、曇りがりやすく雨の降る日もあった。下旬の前半から中頃にかけては、秋雨前線が西日本付近に停滞した影響で、曇りや雨の日が多かった。23日は、奈良で雷を伴った短時間強雨とひょうを観測した。旬の終り頃の29日は、九州の南西海上から進んできた台風第21号が近畿地方を通過した影響で、県南東部を中心に大雨となり、日出岳では総雨量が700mmを超えた。また、奈良で29日19時06分に北東の風15.0m/sの最大瞬間風速を観測した。
- 10月： 上旬は前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。旬の終り頃の8日から9日は、南海上の前線と台風第22号の影響で、県南部を中心に大雨となり、日出岳では総雨量が200mmを超えた。また、奈良で8日08時06分に東北東の風14.7m/sの最大瞬間風速を観測した。中旬は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったが、旬の終り頃の19日から20日は、南海上の前線と台風第23号の影響で、県南部を中心に大雨となった。下旬の前半は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったが、旬の後半は、南海上の前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。
- 11月： 上旬の初めは寒気の影響で、曇りや一時雨の日があったが、その後は高気圧に覆われて概ね晴れて、気温の高い日が続いた。中旬は気圧の谷や低気圧が短い周期で通過した影響で、曇りや雨の日が多く、降水量は平年を大きく上回った。下旬は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かった。26日は、寒冷前線が通過した影響で一時雨となり、その後、27日から28日にかけて冬型の気圧配置となった。また、27日に近畿地方で「木枯らし1号」(昨年より22日早い)を観測した。
- 12月： 上旬は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、4日から5日にかけては、発達した低気圧が通過した影響で、県内で大雨となった。また、平年に比べ気温の高い日が続いた。中旬は、高気圧に覆われることが多く、概ね晴れの日が多かったが、旬の終り頃は、寒気や気圧の谷の影響で、曇りや一時雨となった。また、平年に比べ気温の高い日が続いた。下旬は、冬型の気圧配置となるが多かった。29日以降は、強い寒気が入った影響で気温が下がり雪の降った所もあった。奈良で29日初雪(平年より10日遅い、昨年より9日遅い)を観測した。

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

# 奈良市の月別気象

年月別	気温(℃)			湿度(%)	降水量(mm)		風速(m/s)	
	日平均	日最高平均	日最低平均	平均	合計	最大1時間量	平均	最大瞬間
平成12年	15.1	20.7	10.4	73	1,319.5	79.0	1.4	20.6
13	15.1	20.7	10.4	71	1,189.0	35.5	1.4	23.1
14	15.4	21.1	10.7	71	990.0	37.5	1.4	19.3
15	14.8	20.0	10.3	75	1,646.0	27.5	1.4	24.2
16	15.7	21.4	10.9	71	1,510.5	55.0	1.5	23.2
16年1月	3.7	8.6	-0.1	68	26.0	3.5	1.6	18.0
2	5.6	12.4	0.1	63	52.5	16.0	1.7	19.5
3	8.0	14.5	2.3	66	82.0	10.0	1.7	16.6
4	14.5	21.7	7.6	59	78.0	14.0	1.6	14.8
5	19.2	24.9	14.2	73	285.0	44.5	1.4	14.9
6	23.0	28.2	18.4	73	107.5	15.0	1.5	19.3
7	27.6	33.5	22.9	69	39.5	10.5	1.5	22.7
8	26.4	31.7	22.3	74	199.0	36.0	1.6	20.9
9	24.1	29.1	20.3	77	224.5	55.0	1.5	23.2
10	16.8	21.7	12.5	80	232.0	9.5	1.3	18.0
11	12.4	17.7	8.0	79	114.0	14.0	1.1	14.9
12	7.3	12.9	2.7	76	70.5	20.0	1.2	16.1

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

## 県内各地の気象

(平成16年)

気象項目別	奈良	針	大字陀	五條	上北山	屋
年平均気温(℃)	15.7	13.1	13.8	15.5	14.2	14.8
日最高気温(年平均)(℃)	21.2	18.2	19.9	21.5	20.4	20.5
日最低気温(年平均)(℃)	11.0	8.3	8.7	10.4	9.8	10.4
年間降水量(mm)	1,511	1,742	1,737	1,363	4,782	3,323

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

## 奈良県で感じた主な地震

(平成16年)

月日	発現時分	震度				震央位置		深さ(km)	マグニチュード	震央地名
		奈良	平群	桜井	大淀	東経	北緯			
1月6日	14時50分	3	1	3	2	136度43分00秒	34度12分42秒	37.4	5.4	熊野灘
7月27日	0時54分	1				137度06分36秒	35度45分18秒	10.8	4.5	岐阜県美濃中西部
9月5日	19時07分	3	2	3	4	136度48分00秒	33度01分42秒	37.5	6.9	紀伊半島沖
9月5日	19時16分	1				137度11分36秒	33度07分24秒	43.0	4.8	東海道沖
9月5日	23時57分	4	2	3	3	137度08分30秒	33度08分36秒	43.5	7.4	東海道沖
9月6日	5時30分	1		1	1	136度54分30秒	33度17分06秒	36.8	5.9	紀伊半島沖
9月7日	8時29分	3	1	3	3	137度17分42秒	33度12分18秒	40.9	6.4	東海道沖
9月8日	3時36分	2		1	2	137度11分30秒	33度13分18秒	39.7	5.5	東海道沖
9月8日	23時40分	1				137度19分12秒	32度57分36秒	42.6	5.4	東海道沖
9月8日	23時58分	2		1	1	137度17分24秒	33度06分48秒	36.0	6.5	東海道沖
9月23日	20時56分			1		136度06分42秒	34度21分12秒	7.3	3.9	三重県中部
10月5日	8時33分	1				136度22分48秒	35度55分18秒	12.3	4.8	福井県嶺北地方
10月23日	17時56分	1				138度52分12秒	37度17分18秒	13.0	6.8	新潟県中越地方
10月23日	18時34分	1				138度55分54秒	37度18分12秒	14.1	6.5	新潟県中越地方
10月27日	21時27分	1			1	135度16分12秒	33度38分12秒	38.7	4.4	紀伊水道
12月1日	23時30分	2				135度48分48秒	35度02分06秒	12.6	4.0	京都府南部

有感地震観測回数

奈良市平田開町：15回

平群町鳴川：4回

桜井市池之内：8回

大淀町松垣本：8回

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

(注)各要素は精密調査の結果により後日修正されることがある。